

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月21日

【評価実施概要】

事業所番号	0990200040		
法人名	特定非営利活動法人醍醐会		
事業所名	醍醐の森川崎グループホーム		
所在地	栃木県足利市川崎町2316 (電話) 0284-91-2707		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成19年12月12日	評価確定日	平成20年1月21日

【情報提供票より】(平成19年11月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	10人	常勤8人, 非常勤2人, 常勤換算7人	

(2) 建物概要

建物構造	準耐火木造 1階建の1階部分
------	-------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	<ul style="list-style-type: none"> ・理美容代—実費 ・おむつ代—実費 ・水道光熱費—10,000円 ・日用品費—4,500円 	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(40,000円)	有りの場合償却の有無	有(3ヶ月)	
食材料費	朝食	300円	昼食	500円
	夕食	500円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成19年11月30日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	2名	要介護2			名
要介護3	5名	要介護4			2名
要介護5	名	要支援2			名
年齢	平均 82.6歳	最低	74歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	足利日赤病院、富士見台病院、関内科医院、コム中島歯科
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、渡良瀬川のほとりの1,146坪という広大な敷地の中にあり、同じ建物内には認知症対応型デイサービス事業所、自主事業としての宿泊施設がある。ホームとほぼ同じ造りのデイサービスの利用から始めて、宿泊も重ねながらグループホームに入居するなど、住み替えによるダメージに配慮した支援をしている。敷地内の農園やバラ園、行燈など、入居者や時には近所の方の助言ももらいながら「ここに入居(利用)できてよかった」と思ってもらえるような手づくりの環境整備に努めている。畑で栽培する無農薬野菜など、食にも力を入れている。職員は明るく入居者に接しており、定例会議では運営面での改善に向けた意見交換も活発に行われている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果は、運営推進会議に報告し、定例会議でも話し合っている。重要事項説明書に苦情・相談の窓口を明記したり、注意の必要な物の保管方法を変更したりと改善に努めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は管理者がまとめた。今回の自己評価に限らず定例会議では運営方法等についても話し合いをし、その都度改善に努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	自治会(副会長、顧問)、市、家族会(会長、副会長)、入居者がメンバーになっており、自治会副会長に議長になってもらっている。運営推進会議ではホームの状況を報告し、メンバーから地域の情報など、アドバイスをもらったりしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	広報誌「醍醐の森川崎だより」を季刊発行し、また、毎月、写真を添えて暮らしぶりを書面で家族に報告している。預り金は個々に出納帳で管理し、毎月、家族に確認してもらっている。職員の異動などは広報誌に掲載したり、家族の訪問の際に家族に報告している。家族会があり、運営推進会議には家族会の会長、副会長に参加してもらっている。重要事項説明書にホーム及び市、国保連の苦情、相談窓口を明示している。ホームの苦情・相談の窓口は、計画作成担当者になっており、携帯電話番号も明記しており、いつでも苦情・相談が受けられるようになっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会(町内会)に加入しており、入居者と一緒に回覧板を回しに行ったり、ホームの行事に地域の方を誘ったりしている。開設以来、職員は「挨拶運動」を行っている。近所の方が毎日のようにホームを訪れて、門の開け閉めをしてくれるなど、肩肘を張らないつきあいがされている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に職員の参画のもとに、地域との関係も踏まえた理念をつくっている。運営理念のほかに介護理念、運営方針を定めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所内に理念を掲示し、毎日の朝礼や月1回の定例会議（職員会議）においても理念に基づいた話をしたりしながら理念の実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会（町内会）に加入しており、入居者と一緒に回覧板を回しに行ったり、ホームの行事に地域の方を誘ったりしている。開設以来、職員は「挨拶運動」を行っている。近所の方が毎日のようにホームを訪れて、門の開け閉めをしてくれるなど、肩肘を張らないつきあいがされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は、運営推進会議に報告し、定例会議でも話し合っている。重要事項説明書に苦情・相談の窓口を明記したり、注意の必要な物の保管方法を変更したりと改善に努めている。また、定例会議では運営方法等についても話し合いをし、その都度改善に努めている。今回の自己評価は管理者がまとめた。		

醍醐の森川崎グループホーム

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会（副会長、顧問）、市、家族会（会長、副会長）、入居者がメンバーになっており、自治会副会長に議長になってもらっている。運営推進会議ではホームの状況を報告し、メンバーから地域の情報など、アドバイスをもらったりしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	相談ごとなどで市に出かけたり、市の補助金も活用してホームで敬老会を実施したりしている。	○	「地域福祉」も見据えた展望が見えるので、今後も積極的に市に働きかけながら、協働しながら地域での認知症ケアの推進役としての役割を果たしていくことを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	広報誌「醍醐の森川崎だより」を季刊発行し、また、毎月、写真を添えて暮らしぶりを書面で家族に報告している。預り金は個々に出納帳で管理し、毎月、家族に確認してもらっている。職員の異動などは広報誌に掲載したり、家族の訪問の際に家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会があり、運営推進会議には家族会の会長、副会長に参加してもらっている。重要事項説明書にホーム及び市、国保連の苦情、相談窓口を明示している。ホームの苦情・相談の窓口は、計画作成担当者になっており、携帯電話番号も明記しており、いつでも苦情・相談が受けられるようになっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームと同じ建物内に認知症対応型デイサービス、自主事業としての宿泊施設があり、グループホーム入居となったときに、デイサービス利用で関わっていた職員と一緒にグループホームに異動するなど、継続した関係性に配慮した支援をしている。産休、退職等で職員が変わる場合も入居者への影響に配慮して支援している。		

醍醐の森川崎グループホーム

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	理事長（兼管理者）は、職員の研修に積極的な考え方を持っており、外部研修に職員を参加させるほか、毎月の定例会議で内部の勉強会を行っている。外部研修は出張として受講でき、受講後は報告書を作成し、定例会議で報告し、研修内容の共有に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入している。他事業所からの見学を受け入れたり、職員が他の事業所に見学に出かけたりしている。計画作成担当者は、市内の他のホームと相談ごとなどができる関係をつくっている。理事長（管理者）は、民間事業所の組合設立も考えている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームと同じ建物内に認知症対応型デイサービス、自主事業としての宿泊施設があり、グループホーム入居となったときに、デイサービス利用で関わっていた職員と一緒にグループホームに異動するなど、継続した関係性に配慮した支援をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	要介護度の高まりで介助の度合いが高まっている様子もうかがえたが、職員は入居者から家事を教えてもらったり、時には耕運機で畑を一緒に耕したりしながら一緒に生活する関係づくりに努めている。		

醍醐の森川崎グループホーム

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食べたいものを何うなど生活の中で選択する場面をつくったり、職員の担当制を取り入れて一人ひとりの入居者に深く関わられるようにしたりしながらその時々希望や思い、意向の把握に努めている。センター方式のシートを活用したアセスメントも実施している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員の担当制を取り入れており、職員の気づきも取り入れながら最終的に介護計画性担当者が計画としてまとめ、家族に説明し、同意をいただいている。カードインデックスに介護計画書、個人記録、バイタル、食事・水分、排泄などの状況表を挟み込み、誰でも一覧で状況が見やすいように工夫している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画期間（3ヶ月～6ヶ月）満了による定期的な見直しのほか、入院等、入居者の状態に変化があったときは、その都度介護計画を見直している。	○	計画作成担当者は、より短い間隔で介護計画の見直しをしたいと考えている。入居に至る過程で生活の継続性に配慮しており、またセンター方式や職員の担当制など一人ひとりであった支援を大切にしている様子がうかがえたので、介護計画をよりこまめに見直す機会をつくることで、その時々入居者の気持ちや状態に沿った介護計画・支援を更に充実させていくことに期待したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームと同じ建物内の認知症対応型デイサービス、自主事業としての宿泊施設があり、ホームへの入居過程など小規模多機能型協働介護事業のような支援をしている。		

醍醐の森川崎グループホーム


外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望を聞いてかかりつけ医または協力医療機関での受診を支援している。かかりつけ医の通院は家族の対応となっているが、ホームでの様子を書面にして渡し、受診結果を教えてもらって適切な医療が受けられるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期については基本的に対応していく方針であり、職員間でも話し合いをしている。これまでに看取りに対応する準備をした例があり、必要な資源、対応方法を列挙した家族との同意書を準備したことがある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護に関するマニュアルを作成したり、定例会議の勉強会で取り上げたりしてプライバシー確保の徹底に努めている。声かけや対応については、人生の先輩として呼び捨てや「ちゃん」付けをしないようにし、気になる言葉づかい等があったときには計画作成担当者などが注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあり、目安としてリビングに時間割を貼っているが、一人ひとりのペースを大切にした支援に努めている。		

醍醐の森川崎グループホーム

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と一緒に食材を買い物に出かけ、下ごしらえや片付けなど、入居者のできることを踏まえて一緒に行っている。職員1名が必要に応じて入居者を介助しており、その他の職員は事務室で弁当などを食べていた。	○	現在はケアの都合で職員が一緒の食卓で食べられない状況があるが、家庭的な、という観点から一緒に同じ物を食べられるような工夫、検討をしていくことを期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	同じ建物内の認知症対応型デイサービスのお風呂は温泉になっており、温泉を希望する場合は日中の入浴の支援になるが、夕方の入浴希望などにはホームの浴室で、少なくとも1日おきに入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や後片付け、洗濯物たたみ、折り紙や習字、園芸など役割ごと、楽しみごとの支援をしている。訪問日は入居者手づくりのホットケーキがおやつだった。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	行事的な外出や外食をしたり、日常的な散歩や買い物など戸外に出かける機会を取り入れている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける弊害についてよく理解しており、鍵をかけないケアを目指している。現在は入居者の安全を確保するために基本的に施錠しているが、状況が許すときには鍵をかけていない。		

醍醐の森川崎グループホーム

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害マニュアルを作成し、定期的（年2回）の避難訓練を行っている。事業所の駐車場は地域の避難場所に指定されている。管理者は地域の避難訓練に参加している。ホームでは特に備蓄等はないが、法人のグループ内で旅館を運営しており、有事の際は連携できる体制がある。	○	今後更に夜間の想定をした避難訓練なども取り入れたり、ホームの避難訓練に地域の方の参加を検討したりしていくことにも期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	厨房専門の職員がおり、食事の単位・カロリー計算をしている。カードインデックスを活用して食事や水分の摂取量、排泄の状況などを把握、記録して適切な栄養・水分の確保ができるように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった飾り付けや季節の花など季節感に配慮した空間づくりをしている。訪問日は時節柄、クリスマスの飾り付けがされていた。職員の声やテレビの音なども適切に配慮されており、換気システムもあり空気のよどみ等もなかった。廊下が広めになっており、リビングのソファ以外にもイスやテーブルが置いてあり、思い思いの場所で過ごせるような配慮がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には使い慣れたものを持ってきてもらうように話をし、タンス、仏壇などを持ち込んでいる。持ち込みの少ない方には担当職員が支援しながらそれぞれの居室づくりをしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。